

●熊野神社獅子舞による「春祈禱(はるきとう)」

東京都指定の無形民俗文化財「中神の獅子舞」による「春祈禱」が、4月4日(宵宮)と5日(本宮)に、中神熊野神社で行なわれた。

「春祈禱」とは、今年の五穀豊穡と怨霊退散(おんりょうたいさん)を祈願する熊野神社、春の例大祭である。江戸時代末期から、収穫期前の9月に行われていたが、昭和39年(1964)に昭島市無形文化財に指定された。翌年の獅子舞保存会が発足。

同年、4月開催に変更され、「春祈禱」となる。



▲獅子頭を脱いだ、初々しい三役者(小学生・中学生)

400年以上の歴史を持つ「中神の獅子舞」は古くからの形式を現代まで継承していることで、昭和62年(1987)に東京都無形民俗文化財の指定を受けている。

獅子舞(獅子狂いとも呼ぶ)には、大勢の子供達が参加している。舞台を清める役の「棒使い」。



▲箆(ささら)すりと棒使い

舞の調子を取る役の「箆(ささら)すり」。獅子舞で狂う役の「若獅子」等。特に男子の幼児～小学生は獅子舞保存後継者として期待されている。箆すりの女の子は、惜しまれながら中学3年生で役割を終える。



▲竿につっこむ獅子の勢いを押さえ込む名場面

最後の演目、右の写真は、太刀懸かりのメイン場面、剣士から剣を奪った獅子大頭・中頭が、女獅子の前で自慢気に、「どうだ」と、言わんばかりにそっくり返る。近年、草食系男子が多くなった昨今ですが、女獅子に良い所を魅せようとする、二頭の心境は・・・。

広報部会 / 幡垣 誠

ここ数年間にわたり後継者育成に力を注いできた獅子舞保存会ですが、その成果が現われた獅子狂いが目立った。

その訳は中学生時代から獅子狂いを演じてきた。役者達が、大学生・社会人に成長している、その後も充実した稽古を重ね、満を持して臨んだ今年の「春祈禱」なのだ。

特に竿懸りの狂いでは、竿を抑えきれなく、獅子が飛び出してしまうハプニングもあった。いずれにしてもパワーあふれる若獅子の熱演に、満場は拍手喝采で沸き上がっていた。

